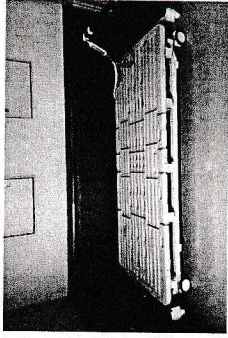


利用者の安全・安心と介護職員の負担を軽減のため

介護施設で活躍する“介護ロボット”を知っていますか？

皆さんもご存知のとおり、介護高齢者の増加、介護期間の長期化など介護へのニーズは、ますます増大しています。一方で、核家族化の進行や、介護を必要とする高齢者を支えてきている家族の高齢化など状況も変化しています。このため、介護施設の果たす役割も重要となってきますが、介護を担う介護従事者の人材が不足しているといわれています。介護従事者にとって利用者の介助には、体力も必要とし腰痛など肉体的な負担が多いことも指摘されており、そうした負担を軽減し、働きやすい職場にしていこうと人材確保のためにも必要です。

そこで、最近では日本の優れたロボット技術を活用し、利用者への安心・安全につながるだけでなく、介護従事者の負担も減らすための取り組みのひとつとして“介護ロボット”を導入している施設が増えています。その“介護ロボット”が、認知症高齢者の「見守り」などをサポートすることにより、介護従事者の負担軽減につながるのではないかと思います。



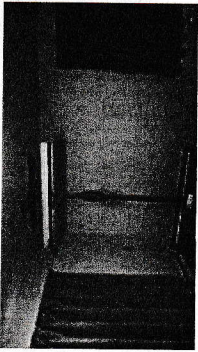
※ ベッド面の各所にセンサーが収納



※ 内部センサーが獲ている利用者の動きを検知 (ジャックアップも可能)

◎ “介護ロボット”は、支援の方法によって次のようなものがあります。

- ① 見守り支援・・・居室等にセンサーを設置し、通信機能備えて被介護者の動きを検知するもの。
- ② 移動支援・・・高齢者の歩行や立ち上りを支援するモーターの制御で移動する手押し車のようなもの。
- ③ 移乗介護（装着型）・・・被介護者を介助すると介護者自身に機器を装着して腰の負担を軽減するもの。
- ④ 移乗介護（非装着型）・・・介助者が一人で使用する事ができる機器。設置型でベッドから車いす間の移乗用として使用するもの。
- ⑤ 入浴支援・・・浴槽に出入りする際の動きの一連の動きを補助するもの。要介護者ひとりでも使用できるものもある。
- ⑥ 排泄支援・・・居室で便座に腰掛けて用い、便器で、排泄物のにおいの拡散を防ぎ、密閉できるよになっているもの。

施設名	ロボットの種類・特徴	使用状況	導入効果	課題	相談員の感想
特別養護老人ホーム 本田山荘	【見守り支援】センサー内蔵の電動ベッド (※外上部の写真)※ ・電動ベッドに内蔵された4つのセンサーでベッド上の被介護者の動き(動き出し・起き上がり・端座位・離床)を検知し受信器に通報する。	・利用者の行動特性を考慮し、身体状況を確認し、設定や感度の変更をしながら常時使用している。 ・電動ベッドであることから介護者の身体的負担は軽減している。	・センサーの作動で早期の動き出し起き上がりを確認できた。 ・現在の導入台数が4台のみで、導入直後なので、まだ活用効果は見えてきていない状況である。	・利用者の状態に応じた感度設定が必要のため、適切だと頻回の作動や感知漏れをすることがあるが、設定ができれば、特段の煩雑さはない。 ・負担軽減となるためには台数を増やすことが必要である。	・有効に介護ロボットを使うことで職員の介護負担の省力化になれればいいと思う。 ・移乗行為は、中腰のうえ力仕事なので体を痛めることがあるようです。こうしたことを防ぐためにも介護ロボットが普及し人材不足の解消につながればいいと思う。
グループホーム あったか広場 一会	【見守り支援】壁面につける赤外線光センサー ・光センサーにより被介護者の動きを検知し、受信器に通報する。大きな動きから、もたえ・ふらえるといった小さな動きや生体反応も検知することができ。	・日中、夜間とも体動が見られる利用者に使用している。	・受信器（スマホ）の画面に始動がリアルに目視できる(少しの動き反応し確認できるので転倒、転落防止に役立つ。	・少しの高さ変動によりエラー表示となるのでその都度修正が必要となる。 ・反応が良すぎでよく確認に行くことになる。 ・機器が高額で移設にも費用がかかること。	・介護者の負担軽減という実感に至るまでは、もう少し時間がかかると思う。 ・機器の操作に慣れるのまでが大変そう。 ・ロボットを使うことで、介護に必要なことは「目視」であることを再認識したというのは、理解できる。
通所介護 一期一会のデイ御飯屋	 ○ベッド上部の壁面に設置したセンサー	・転倒の恐れのある高リスク者の転倒予防の見守りのために使用している。 ・デイの利用時間のうち、使用時間は、平均1～1.5時間である。	・危険動作時がわかるので訪室時間が短縮した。 ・寝返りと立ち上がりの動作が分類できるため訪室回数が減った。	・機器を移動する場合、費用がかかること ・測量点が変わると感知エラーを起こすため、使用が限定的であること。 ・終末期の呼吸器や褥瘡予防への効果は期待される。	・重度の利用者などに対して、ベッド上の動きが手元の端末器でどこにいても把握できるのは、見守りをする介護者の負担軽減にもなりその必要性は高くなっていくと思う。 ・操作の手間やコストに見合うよう介護者にとって使い易いものに改良されていくことを期待したいと思う。
通所介護 健康ステーション 島田金谷	【移動支援】モーター付電動歩行器 ・手押し型でセンサーが周囲の状況を検知し車輪をモーターでスピードを制御し上り坂・下り坂の移動や停止が安全にできる。 ・屋内外で使用ができる。	・送迎車から施設に入る時や施設内でトイレへの移動時にほぼ毎日利用している。 	・手を添えるだけで上り坂ではパワーアシスト、下り坂では、減速するの で、歩行困難者やパーキンソン病の方でも安全、安楽に移動でき転倒の危険が低減できる。 ・利用者、職員双方に心理的不安が低減でされ、非常に満足している。	・電源を入れてから起動までに時間がかり、動かさないとい一定の時間で電源が切れてしまうこと。 ・使用時間が短いこと。 ・誤作動しないよう作動スイッチに安全装置がついているが、それを利用者自身が理解できないことがあるため、戸惑っていることがある。	・これまでのように職員がしっかり支えていなくてもすぐ手を差し伸べられる側にいて寄り添うことで利用者も職員も安心感が得られる様子であった。 ・安全装置1つとっても一長一短がある。安全確保と事故防止を図るためにも改良の余地がまだまだあると思った。

○歩行器を使って室内を移動中